

## 園まつりを終えて ～年少編～

楽しかった園まつりが終わり、展示室へみんなの動物を迎えに行こうということになりました。展示室に向かう途中に聞こえてきたのは、動物たちを心配する声。「おなかですいでるからミルクをあげるの」「さびしいって言ってるかな～」と、早く会いたい気持ちが膨らんでいたようです。

展示室に着くと、どの子も一目散に自分の動物のもとへ駆け寄っていきました。そして手に取ってにっこり！ぎゅっと胸に抱きしめて離さない子もいました。「動物さんのごはん」として雰囲気作りのために先生たちが飾った果物を手に取って、「このりんご、持って帰って食べさせてもいい？」という子もいて、それぞれが自分の作品を大事に思っている気持ちが伝わってきました。中には「休みの日にぼくとおかあさんがけんかしたから、ライオンさん怒ってるみたい…」というほほえましいつぶやきも。子供たちは本当のお友達のように自分の作品に接しています。



【わたしの動物さん、ぎゅっ♪】



【このりんご、食べさせてもいい？】

保育室へ持ち帰る間に顔のパーツが取れてしまった子がいました。悲しい気持ちになるかな？と思いきや、「帰ったらボンドでくっつける」と言ってパーツを大切に握りしめていました。年少さんも納得のいくまで素材を選び、何度も組み合わせを考えながら自分で仕上げた作品。壊れてもまた直して大事にしようという気持ちと、自分で直せるという自信が表れた一言に、成長が感じられて頼もしく思えた瞬間でした。

保育室でも園まつりの話題は尽きません。「うみの中でせんすいかんに乗ったよ！」「たこやき食べた～！」「わたしのお母さん、パンやさんだったの」「おじいちゃんとおばあちゃんも来てくれたんだ～！」と思い思いに楽しかったこと、嬉しかったことを話して、とても盛り上がりました。子供たちはおうちの方のお店をイメージしてお店やさんごっこをしたり、ゲームコーナーにあった巨大パズルで遊んだり、楽しかった思い出を絵に描いたり、印象深かったことをそれぞれに遊びに取り入れていました。

子供たちが描いた絵には、それぞれの楽しかった思い出が画用紙いっぱいに表現されて

いました。ゲームコーナーで遊んだときのことや、園庭で食べた焼きそばやひがしパンのこと。園まつりに来てくれたおうちの人や大好きなお友達顔、そして展示室でたくさんの方に見ていただいた自分の作品。初めての園まつりを目いっぱい楽しんだことが伝わってきて、とても嬉しく感じました。



【いらっしゃいませ〜♪】



【わなげのお兄さん、すごかったな〜】

外遊びに自分の動物を連れていきたい！という子もいました。動物と一緒にすべり台の下の秘密のスペースに入り込んで、にっこり嬉しそうにするなど、いつもの外遊びとは違う特別な時間を味わっているような、わくわくした表情をしていました。それだけでなく、砂場の近くに椅子を用意して「ここで待っていてね」と休ませたり、「のどがかわいたでしょ？」と水を飲ませたり、クラスで育てている野菜を「どうぞ！」と分けてあげたりする場面もあり、優しくお世話をする様子がとてもすてきだなと思いました。

園まつりを通しての経験が、子供たちの次の遊びに繋がっていきます。「(自分の作った動物の)おとうさんとおかあさんを作るんだ」と言って、せっせと家族を増やしていく子もいれば、パーツを組み合わせて顔を作ることが楽しくて、新しく製作した作品に顔をつけた子もいます。子供たちそれぞれの「こんなことがしたい!」「こうしてみたい!」という気持ちに寄り添って、その思いが実現できるような環境をこれからも用意していきたいと思っています。

年少 養護



【サニーレタス、好きかな?】



【お顔のついたペンダントできた♪】